

一人の経営者として

各部が独自に学校運営を

2018. 10. 31

No.37

校長 渡邊 幸二

「職員会議とは何ですか？」と突然訊かれても、「え？今やっている、この会議のことでしょ!？」と思うことでしょうか。実際私もそう思っていました。いわゆる、定例の、一堂が会するどこか硬い感じの会議のことです。

ところで、職員会議には4つの機能があるとされています。

- ① 校長の意思伝達機能
- ② 教職員の経営参加機能
- ③ 教職員間の連絡・調整機能
- ④ 教職員間の研修・研究機能



研修会も大切な「職員会議」

これまでの職員会議は③にあまりにも多くに時間を割いていたように思います。ICT化が進み、ペーパーレス・AIの時代と言われている昨今、企業の会議も大きく変わっています。我々も、**もっと本質的なことについての「会議」を行うべき**です。②④などもっと子どもにかかわること、日々の授業にかかわること、子どもたちの成長・人生・生徒指導にかかわることなど、本当はみんなでいろんな意見を交わす(インタラクション)場であるべきだと思います。

もちろん、それらの会議はあくまでも話し合いの場であって、最終決定をするのは校長です。それは法律で決まっていることであり、動かしようがありません。しかし、それは校長が細部にわたる全てまでを決定するというものではありません。

大きな枠組みの中の一人の経営者として

私は、ある程度のところまでは先生方が決めて構わないと考えています。もちろん報告することはお願いしますが、大きな経営方針という枠組みの中で、ベクトルが同じ向きである、ねらうことが経営方針の延長線上にあるということであれば、私はみなさんの考えた案に賛同いたします。たとえやり方が私の考えていることと違っていても、その枠組みの中であれば、みなさんの考えを尊重いたします。

スターバックスを世界的企業に成長させたハワード・シュルツ氏にはこんな話があります。当初、シュルツ氏は深煎りコーヒーを経営の柱としようと考えていたそうです。しかし、経営チームの中に一人だけ「アーモンドやキャラメルを入れる」という案を出してきた者がいた……シュルツ氏自体は却下したかったが、ぐっと堪えて、とりあえずある店舗で試すことは許可したそうです。しかし、シュルツ氏の予想を覆し





大ヒットに！それが「フラペチーノ」であり「マキアート」という現在の主力商品だということです。

私が、みなさんの意見を尊重するのは、うまく行かないときにその責任を取らせるためではありません。最終責任はあくまでも私自身にあります。みなさんの優れたアイデアや大胆な発想・取り組みを経営に活かすため、プラス、みなさん自身に主体的な行為者として経営参加しリーダー性や運営・経

営術を学んで欲しいからです。ベテランも若手もそれは同じです。

ですから、今日の話し合いでみなさんの脳が化学反応を起こし、何かしらのアイデアがひらめいたり、やってみたいことが生まれたりしてきたのであれば、(それは大きな枠組みから外れていないと思いますので)部長さんと相談して実践化を図ってください。お金が必要であれば何とかがんばってみますので教頭にご相談ください。新たな時間が必要であれば、これも何とかできると思いますので教務主任にご相談ください。

そういう意味では各指導部は、学校という組織を支えるひとつの**意思決定組織**でもあります。権限が委譲されていると思ってください。**各指導部の長**となっている方は、校長の経営方針等の**よき理解者**であると同時に、それを率先して具現化していく**リーダー**であるのです。同じように、**主任**という名前が付く方も、大きな枠組みの中で主体性を発揮して、自分なりのアイデアを実際に行いながら**学校経営に参加・貢献**していただきたいと思っています。「掲示主任」は単なる「貼る係」ではありません。掲示という環境を通して児童への教育をつかさどる掲示教育担当であります。それは情報主任でも給食主任でも、**学校の経営方針を具現化する、課題を解決するために存在している**のです。

もちろんいろんなアイデアが錯綜し過ぎる時は調整が必要です。それが教務主任の役目です。多くの学校は地域からの要望や上からの要望・命令が多過ぎて、現場がアップアップしています。本来の主体的な学校というのは、自らがやってみたいことに満ち溢れ、それに対しての調整が必要で、そのための職務として「教務主任」が位置づけられているはずなのです。

この職員会議を通し、みなさんの思考が活性化され、より楽しみながら仕事ができる職場になることこそ、私は本当の「**働き方改革**」だと思っています。どうか遠慮なく、部長として、主任として、担当として、一教師として、アイデアを提案、実践してみてください。もちろん**失敗してOK**です。一步踏み出さなければ失敗も、反省も、改善も、新たなる進化もありません。



今、浜田小学校には**みなさんの「一步」が絶対に必要**です。